



競技用具の科学

— 飛ぶやりの探究 — 展

2024. 1/4 [木] — 3/24 [日]

開室時間◆10:00~17:00 (最終入室16:50)

休室日◆月曜日 (ただし1/8、2/12は開室) 1/23 (火)、1/24 (水)
※休室日は変更になる場合があります。

観覧料◆無料

主催◆独立行政法人日本スポーツ振興センター 秩父宮記念スポーツ博物館
後援◆国立大学法人神戸大学大学院人間発達環境学研究科

会場◆秩父宮記念ギャラリー (国立競技場)
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町10-1 (代: 03-5843-1300)

問い合わせ◆独立行政法人 日本スポーツ振興センター
秩父宮記念スポーツ博物館 (047-401-1724)



秩父宮
記念ギャラリー



出品資料

01	NISHI	HYBRID WING	Duralumin/CFRP
02	NORDIC	AIRGLIDER CARBON	CFRP
03	NORDIC	ORBIT CARBON	CFRP
04	NORDIC	CHAMPION CARBON	CFRP
05	OTE	Carbon TAIL WIND	CFRP
06	NEMETH	Classic 95 COMPOSITE	Composite
07	NORDIC	AIRGLIDER	Steel
08	NORDIC	ORBIT	Steel
09	NORDIC	CHAMPION	Steel
10	NORDIC	SUPER ELITE 90	Steel
11	NORDIC	MASTER 70	Steel
12	NISHI	Ma·in	Duralumin
13	NISHI	Supreme	Duralumin
14	NISHI	Super	Duralumin
15	NISHI	Long	Duralumin
16	NISHI	Medium	Duralumin
17	OTE	HEAD WIND	Duralumin
18	OTE	TAIL WIND	Duralumin
19	NEMETH	Classic 95	Duralumin
20	NEMETH	Classic 90	Duralumin
21	apollo	OLYMPIC	~1985 rule
22	APOLLO	OLYMPIC	1985/86 rule
23	DICK HELD	MARK IV CUSTOM	1985/86 rule
24	Pacer Held	NOVA II	1987 rule
25	NEMETH	Classic 80+R FH	1987 rule
26	NORDIC	SANDVIK ORBIT XL	1987 rule

競技としてのやり投の歴史は古く、狩猟や戦闘の手段から生まれ、古代オリンピックの五種競技として採用されました。今日に至るまで、競技者の技術改善や体力向上、施設・用具などの諸環境の整備・改良によって、大幅に記録の向上がなされてきました。しかし、特異な長さをもつ「やり」という物体に関してはあまり知られているとはいえません。

この展覧会では、やり投競技で使用される構造物としての「やり」にスポットをあて、重心の位置や材質、剛性、振動などの特性が、競技にどのように影響するかを、わかりやすく解説します。



次回の展覧会

常設展

2024年 3/29 [金] — 3/31 [日]

アクセス

秩父宮記念ギャラリー（国立競技場）

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町10-1 国立競技場（外苑門/Eゲート）

◇JR総武線各駅停車 千駄ヶ谷駅/信濃町駅：徒歩11分

◇都営大江戸線 国立競技場駅（A2出口）：徒歩7分

◇東京メトロ銀座線 外苑前駅（3番出口）：徒歩11分

